

教育警務委員会・県外視察報告

1 調査日

令和5年7月26日（水）～ 令和5年7月28日（金）

2 出席委員等

八嶋浩久委員長、谷村一成副委員長、瀬川侑希委員、亀山彰委員、永森直人委員、武田慎一委員、火爪弘子委員、米原蕃委員
（その他、執行部が参加）

3 調査の概要

○令和5年7月26日（水）

(1) 埼玉県庁（埼玉県警察本部）

調査項目：AI-OCRの導入について

応 対 者：埼玉県警察本部 情報管理課

内 容：AI-OCRとは、AI（人工知能）を搭載したOCRにより、紙文書の活字及び手書き文字を認識し、デジタルデータに変換するために使用するシステムである。

埼玉県警においては、株式会社インフォディオの製品「スマートOCR」を令和3年12月から導入しており、製品選定のポイントや整備費用、導入による業務改善効果等について担当課から説明を受けた。

システムの導入により、事務作業の精度向上や時間短縮が可能となり、現場の職員からは、入力時間が減って捜査に集中できた、時間外勤務が減ったという声が聞かれている。





埼玉県警察本部

(2) 埼玉県庁（議事堂）

調査項目：祭り文化の継承について

応 対 者：埼玉県教育局 文化資源課

内 容：埼玉県においては、ユネスコ無形文化遺産に登録された「山・鉾・屋台行事」33件を構成する川越氷川祭、秩父祭など、全国的にも有名な祭りがあり、伝統文化を継承していくための取組について調査した。

担当課から埼玉県における文化財の概要、補助金の活用状況等について説明を受けた後、人口減少に伴う担い手不足問題や、外部に対するアピール等について質疑応答を行った。



埼玉県議会議事堂

○令和5年7月27日（木）

(3) 千葉県立印旛明誠高等学校

調査項目：高校再編について

特色ある教育について

応 対 者：印旛明誠高等学校、千葉県教育庁

内 容：印旛明誠高等学校は、前身の印旛高等学校の再編によって誕生した学校であり、開校の経緯や教育内容等について調査した。

再編をきっかけに、進学を重視した単位制の高校として生まれ変わり、少人数授業や学校独自科目の設定など、単位制のよさを生かした丁寧な教育を行っている。

また、印西市唯一の高校であり、地域のイベント等に生徒が参加するなど地域とのつながりが深く、地域と連携しながら生徒を育成している。

学校施設の見学では、木材を多用した校舎や、多目的に利用できるステップと呼ばれるスペース等の調査を行った。



ステップスにて



千葉県立印旛高等学校

(4) 千葉県警察本部

調査項目：移動交番車の運用について

通信指令センター

応 対 者：千葉県警察本部 地域課、通信指令課

内 容：千葉県では、県下38署（成田空港警察署を除くすべての警察署）に60台の移動交番車を配備しており、導入のメリットや活用法等について調査した。

移動交番車の最大のメリットは機動力であり、事件や事故発生時、あるいは大規模イベント開催時など、状況に応じて柔軟に運用することができる。また、移動交番車の目立つデザインは、警戒していることを県民に知ってもらい、安心感を与えることを目的としている。1台につき警察官2名、移動交番相談員1名で運用しており、1名は女性としている。

あわせて、110番を受理する窓口である通信指令センターの運用状況についても視察を行った。



千葉県警察本部

○令和5年7月28日（金）

(5) TOKYO GLOBAL GATEWAY BLUE OCEAN

調査項目：国際化に対応した教育について

応 対 者：株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAY、東京都教育庁

内 容：TOKYO GLOBAL GATEWAYは、東京都教育委員会と株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAYが提供する体験型英語学習施設である。英語を楽しみながら実践的に使う機会を提供し、子供たちの学習意欲を高めることを目的としている。

施設概要やプログラム等について説明を受けた後、外国における様々なシチュエーションをリアルに再現した館内を見学するとともに、子供たちがプログラムを受講している様子や、学習をサポートする外国人スタッフの役割等について調査を行った。



TOKYO GLOBAL GATEWAY